

所 信 表 明

2024 年 9 月

安芸高田市長 藤本悦志

1. はじめに

令和6年9月定例会は、市長就任後、初めての定例会となります。今後の市政を運営するに当たり、所信の一端を申し述べ、議員各位をはじめ、市民の皆様のご理解とご協力を賜りたいと存じます。

この度、多くの市民の皆様のご支持を頂き、安芸高田市長に就任してから、概ね2ヶ月が経過しました。改めてその責任の重さを実感し、「対話からの前進」を軸に多様な意見を汲み取る寛容さで改革を実行し、市民、社会にとって良い結果を導き出せるよう、安芸高田市の未来のために全身全霊で取り組む覚悟です。

私自身、今回の市長選挙を通じて市民の皆様にご訴えてきたことは、「対話からの前進」です。多くの市民の方からは「市役所や市職員が、市民にとって遠く感じる存在になっている。」という言葉をよく耳にします。言葉を換えれば、市民の視点に立った市政の立て直しを進めてほしいという民意の表れだと受け止めており、今後、様々な検証を行いながら、良いものは継承し、課題のあるものはしっかりと改めるといったスタンスで取り組んでまいりたいと考えています。

就任後には、(仮称)安芸高田市公園及び認定こども園整備基本構想策定業務のプロポーザル手続きの中止や議会広報誌の発行予算の執行保留の解除を行いました。原点回帰し、対話を通じた丁寧な説明を行いながら前へ進めていく考えです。

また、損害賠償請求控訴事件の判決に対し、最高裁判所への上告及び上告受理申立ては行わないこととしました。安芸高田市にとっての

最適解を導けるよう注力します。

さて、ご承知のとおり、安芸高田市を取り巻く環境は、人口減少、少子高齢化、地域コミュニティの弱体化、社会インフラの老朽化、厳しい財政状況など、課題が山積しています。

こうした諸課題に正面から向き合い、いくつもの喫緊の課題を乗り越えながら、私たち一人ひとりのふるさとである安芸高田市を守るため、未来への道筋をつけていかなければなりません。

そこで私は、市政に対する3つの基本姿勢のもと、5つのビジョンを柱として取り組みを進めてまいります。

まず、市政に対する基本姿勢ですが、「まとめる」「あったか」「やりぬく」という3つの視点で取り組んでまいります。その視点について順次述べさせていただきます。

2. 基本姿勢

(1) まとめる

基本姿勢の1点目は、「まとめる」です。

この4年間、市議会との関係は過去に例を見ない「対話」のない状況が続いていました。この閉塞感を打破し、「対話」を基本に市議会との関係改善に努めるとともに、真の二元代表制を実現し、市民の負託に応じていくために、市民の皆様に納得いただける結論に至るまで、対話を続ける覚悟です。

(2) あったか

基本姿勢の2点目は、「あったか」です。

誰も置き去りにしない「あったかまち」づくりの実現を目指し、生涯にわたり、市民の「困った」や「しんどい」の声や思いをくみとり、きめ細かい制度と仕組みによって、住民と行政が互いに「だいじょうぶ」という気持ちで繋がったまちづくりを目指します。

(3) やりぬく

基本姿勢の3点目は、「やりぬく」です。

「ツケを次世代に回さない」。全ての事業の優先順位や予算配分を厳格に行い、未来に向けて健全な行財政運営を目指します。

また、今年度は第2次安芸高田市総合計画の最終年度です。総合計画は、市が取り組む「まちづくり」の最上位に位置する計画です。

今後 20 年を見据えた基本構想と 2025 年度から 2028 年度までの基本計画を策定し、今後市が行う様々な事務事業を一つの方向性のもとに計画的に推進していきます。

さらに、総合計画を財政的視点から支援し、実効性を高めるための財政推計を作成するとともに、毎年度の予算と整合を図りながら財政推計を改定し、計画的で持続可能な財政運営を目指します。

続いて、5 つのビジョンについて説明します。

3. ビジョン

(1) 対話による改革

ビジョンの 1 点目は、「対話による改革」です。

不安をあおる行財政改革ではなく、対話を重視し、異なる意見もくみ取る寛容さで改革を実行していきます。

現在、2022 年 9 月に改訂した安芸高田市公共施設等総合管理計画に基づき、10 年後の 2034 年度までに公共施設の総延床面積を 37%削減し、更新費用や維持管理費用を大幅に圧縮させていくこととしています。地域や受益者の思いをくみ取り、丁寧な説明と対話を重視しながら推進を図ってまいります。

また、職員がやりがいと誇りを大切にする職場風土を醸成し、働きやすくすることで、不安や課題を抱える市民と日々向き合い、市民の痛みに寄り添い、答えを出していける市役所を創り上げていきます。

(2) 暮らしやすい“あったかい”まちづくり

ビジョンの2点目は、「暮らしやすい“あったかい”まちづくり」です。

「おたがいさま」の気持ちで繋がり、誰も置き去りにしない“ふるさと”安芸高田市をつくります。

そのために、「まちづくり」「多様性を認め合う人権のまちづくり」「賑わいの創出」に取り組みます。

まちづくりについては、人口減少と高齢化の進行、3年間に及ぶコロナ禍の影響など社会情勢が変化する中、地域振興組織の活動は、担い手不足や負担感の増大など、課題が顕在化しています。さらに、防災や高齢者・子どもの見守り、居場所づくりなど、地域の関わりが重要になる新たな課題が発生しています。

市民と行政が協働する意義と目的を再確認しながら、地域の力を活かした住民自治を実現できるよう、市民と行政との協働によるまちづくりの仕組みを見直していきます。

また、地方の交通問題は深刻さを増し、自家用車以外に移動手段のない地域が増え、高齢者や子どもは一人で病院へも買い物にも行けなくなっています。こうした状況に対し、買い物不便地域解消のための「移動販売」や地域の公共交通機関の空白地帯を補完するために導入されているライドシェアの可能性を探るなど、支援策の検討を行います。

多様性を認め合う人権のまちづくりについては、外国人だけで

なく、誰もが一人の人間として、互いを尊重し理解し、互いの人権を守ろうとする社会の実現に向けて、人権啓発・多文化共生推進に引き続き取り組みます。

また、障害の有無にかかわらず、地域の担い手として安心して暮らせる共生社会の実現に向け、支える人と支えられる人に分けられることなく、ともに支え合い、個々の能力が発揮できる活力ある社会を目指します。

賑わいの創出については、市内 22 の神楽団の協力の下、神楽門前湯治村での公演をはじめ、「EXP02025 大阪・関西万博」での出演に向け、関西圏において、継続したプロモーションを行い、「ひろしま安芸高田神楽」の魅力発信と関係人口の拡大に繋げていきます。

また、本市にはサンフレッチェ広島や安芸高田ワクナガハンドボールクラブの練習拠点があります。トップレベルを身近で感じることができるスポーツ環境を生かし、誰もがスポーツに親しみ、関心を高める機会を創出するとともに、市民の応援機運の醸成を図ります。

さらに、これまで認定こども園の建設予定地であった旧田んぼアート公園予定地は、公園機能に特化し、近接の道の駅三矢の里あきたかたとの相乗効果によって地域住民はもとより市内外からの集客による賑わいの創出に繋げていく考えです。

(3) すくすく子育てとまなび

ビジョンの3点目は、「すくすく子育てとまなび」です。

子どもたちは、社会の未来を担う宝であり、子どもを育てる制度と仕組みを見直し、「子育て」と「まなび」を幅広く支援します。

産科のない本市においても、安心して産前産後期間を過ごせるよう、助産師や保健師が妊産婦の全戸訪問を行い、きめ細やかな支援を行います。

「子育て」については、みんなを思いやりながら自分たちの未来を築く力を育むために、子どもたちの共感性、内発性、創造性を伸ばす保育など、先進的な事例を参考にしながら保育支援に取り組みます。

また、災害リスクのある吉田中心部の市立3保育施設を統廃合し移転する計画については、吉田小学校区内に建設することを前提に、関係者との協議を進めていきます。

「まなび」については、子どもたちにより良い学習環境を提供していくため、中学校統合の議論を進め、学校教職員の働き方改革にも注力します。

すべての子どもの学びを保障する取り組みとして、いじめや不登校等悩みを抱える児童生徒を支援するための体制整備をはじめ、フリースクールやオンライン教室を通じた子どもの学びの場の拡充など、学校現場とNPOやフリースクールなどとの連携を図ります。

また、障害や病気の有無、国籍や人種、宗教、性別といったさまざまな違いや課題を超えて、全ての子どもたちが同じ環境で一緒に学ぶ「インクルーシブ教育」の支援を行います。

地域ぐるみによる子育て支援について、子どもの居場所づくりや多世代交流の拠点としての役割でもある子ども食堂の実現に向け取り組みます。

(4) めくもりのふくしとシニアの底力

ビジョンの4点目は、「めくもりのふくしとシニアの底力」です。

誰もが住み慣れた「安芸高田市」での暮らしを続けられるまちを目指します。

若者への未来の投資に加え、生涯現役であり続けられるまちづくりに向け、元気なシニアを応援する取り組みを行います。高齢者自らが健康管理や介護予防に関心を持ち、自身の興味・関心に基づいた生活の目標を立て、活動を行うことを支援するツールとして「シニア手帳」を作成し、社会活動やコミュニティへの参加など、まちづくりに向けた投資に繋がっていきます。

すべての市民の健康に欠かせない地域医療について、市内唯一の総合病院である吉田総合病院を核として医療体制を確保します。

(5) がんばる産業はまちの原動力

ビジョンの5点目は、「がんばる産業はまちの原動力」です。

企業誘致を促進し、商工業や農林業を支援して元気なまちを目指します。

市内商工業の振興と持続的な発展を図るため、商工会、工業会及び各種団体と連携した支援に取り組みます。農業については、従事者の高齢化や担い手不足などの課題を抱えており、農業経営基盤強化を推進することにより、「稼げる農業」を実現し、持続可能で強靱な農業の経営体を育成していきます。林業についても、担い手不足などが大きな課題であり、従事者の育成確保をはじめ、適切な森林整備などを進めるための財源である森林環境譲与税を活用し、林業の振興を図ります。

本市は緑豊かな自然に囲まれ、地域の自然、文化、歴史、作物などが豊富であり、その資源を生かし農村の文化や自然に触れながら交流する「エコ・グリーンツーリズム」の取り組みをはじめ、既存の観光資源を生かした取り組みを推進します。

4. 結び

市長選挙を通じて訴えてきた「対話」は、市の前進に繋がる市民ニーズを正しく把握し、市政運営のパートナーでもある市民の皆様に参加いただくためにも欠かせないものです。そのため、年代や業種などのカテゴリー別の対話集会を開催するとともに、市役所内では部局横断的な取り組みを行いながら、新しい政策や施策を立案し、速やかに実行していく組織に変えていきます。

結びにあたり、これからの4年間、対話を重視し、未来を見据えた政策や施策を打ち出し、着実に成果を収めることに、誠心誠意、リーダーシップを発揮して全力を尽くしてまいります。

以上、私の所信の一端を申し上げます。

議員の皆様並びに市民の皆様の格別なるご理解とご協力を賜りますよう改めてお願い申し上げます、所信表明といたします。